

竜王北中学校 学校関係者評価書

令和4年2月17日（木）

（竜王北中学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和4年1月31日（月）書面による意見集約

会場：

参加者：（学校関係者評価委員）

石合廣光 佐藤一郎 齋藤一三 小尾裕子 深沢勝彦 西山正志
（学校側）

依田宏記 青柳俊也 雨宮弘

I 学校側から提案された内容

- ・令和3年度自己評価書
- ・令和3年度自己評価シート集計結果

II 協議された主な内容

- ・令和3年度自己評価書についての意見及び感想。
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善策。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・教育目標の実現を目指して、教職員・生徒・保護者・地域が連携して取り組んでいることが、データからも、日々の営みからも感じとることができる。特に授業づくりに対する教職員の意識が100%というのは、頼もしい限りである。
- ・人間性を高めるには、道德教育をしっかりとすることだと思う。道德教育の一番のものは、あいさつからだと思う。
- ・「地域人材」の項目は、以前からの課題、竜北小との連携の中で、地域を本格的に見つめ直す中から、再考する必要がある。しかし、現状を考えると、どのように工夫していくのか難しい。

II 特徴

I 学校目標に関して・学校経営に関して

- ・生徒第一が根底にあっての学校教育活動のスリム化は重要であり、さらなる努力が望まれる。部活動については、教職員の考え方の相違も大きな要因となっているので、考えからの折り合い点を見いだす必要はないだろうか。部活動も大切な生徒理解の場面でもあるので。教職員一人一人がゆとりをもち、豊かな生活を送ることが、よりよい教育活動の推進につながる。
- ・事務処理の軽減を行ったり、事務職員の増員を行うべき。
- ・教育活動を低下させないで、多忙化を解消していくとすると、どの面に目を向けていくか。行事の精選も、生徒の多忙化を防ぎ教育活動目標の達成を高めるための観点から取り組んで、それが教員の多忙化をも低下させてくれるように考える姿勢がないと、生徒保護者に受け入れられないので、言い方にも注意して進める必要がある。どの行事、教育活動にも意義はあるが、全部はできない。本校が大切にしたい、重点としたい教育的意義はなんなのかを明確にすることが大切。

II 学校運営について

- ・コロナ終息の目処が立たない今、この先行事等の中止や延期または分散登校はあり得るので、その対策を予め立てておくことも大切である。行事等が集中した場合でも、リーダーを代えるのではなく、協力体制を密にする方がスムーズな展開になるのではないかな。
- ・危機管理については、いつ何が起こるか分からない時代なので、マニュアルの簡素化したものも作成しておく必要もあるのでは。

III 学習指導について

- ・教職員・生徒・保護者の信頼関係が良好であるからこそ、教職員と生徒たちが行う授業、それを見守る保護者が一体となり、よりよい授業が成立しているものと思われる。
- ・一人一台 PC は、教具として使う程度で良い。PC に振り回されては本末転倒である。評価書の改善策の終わり 2 行の意見に大賛成である。
- ・ICT を活用した授業が増えていくので、先生も授業内容や指導方法について研究していく必要がある。
- ・全体的な生徒の評価は高く、教職員の努力が伺える。

IV 生徒指導について

- ・一人一人の生徒を大切にしながら、きめ細かな対策と対応を常に考えていることに、頭が下がる。生徒指導についても地域の役員・民生児童委員・育成会などとの連携のあり方も今後考えていき、地域を巻き込んだ生徒指導が行われればよいと思う。(個人情報 を考慮しながら)
- ・教職員が生徒に熱く向き合っていることが伺える。
- ・ケース会議が開かれれば、支援することができると思う。
- ・コロナ禍で、不登校生徒も増えてしまっているかもしれない。不登校生徒への学習保障の面でも ICT の活用などいいと思う。
- ・いくつかの項目で、1 年生が低いので、特に意識して生徒指導のどこを大切にしていくな方針を出す必要があると思う。

V 地域との連携について

- ・地域の方に学校に来てもらい、学校の様子を見てもらうことも大切だが、学校が地域に出向くことも必要ではないか。昔のような地区懇とは異なる方法はないだろうか。地域の役員との話し合いはどうだろう。学校から地域を見る目、地域から学校を見る目は、また違うものである。その両方を経験しているので、その違いを感じている。連携は小さな一歩から始めることが肝要。
- ・地域の資源(人、物、歴史や地理)については、単独校で見つけるのではなく、教育委員会等で探して登録してもらい、必要なときをお願いするのが良い。
- ・意見交換や情報の共有が全くできず、コロナが落ち着いたら総会等を開催したい。
- ・コロナ禍で PTA 活動も制限され、地域の大人との関わりも少なくなってしまった。新しい生活様式の中で地域の大人との交流を考えていかなければいけないと感じる。

VI 学校の特色について

- ・あいさつ運動の輪を地域を巻き込んで取り組んでみるのも良いかな。
- ・読書活動は、たとえ 10 分でも継続することが大切。中学生の多感な時期に、心に残る一冊と出会わせたい。
- ・あいさつ運動は道徳教育の要だと思うので、不満を感じる教職員がいることを少し残念に思う。
- ・登校の旗振りをしていけると、しっかりとあいさつされ、気持ちがいい。

VII 創甲斐教育について

- ・創甲斐教育の 3 項目は、日々の教育活動の積み重ねにより培うべき内容である。継続した取組が成果を生むのではないかな。表現力に関しては、これもコロナ禍において向上させるには、工夫が必要だと思う。

VIII 地域での生徒の様子

- ・地域と中学生の関わりは希薄である。それは、地域の行事に中学生が参加しないというよりできない状況である。行事の多くは日曜実施。中学生としては、部活動のないときはゆっくり休みたいだろうから、やむを得ない。課題の1つである。地域と中学生の関わりにどう取り組むかについて、学校・地域の役員で共通理解をすることが大切である。
- ・あいさつ運動の成果として、学校以外でもあいさつする生徒が前より多くなったと感じる。
- その他
 - ・竜王北中は、道德教育の公開を通して大きな成果を上げた。この成果も当時の先生方がいなくなると、やがて風化されていく。そうならないように、竜北中の財産として継続した取組を、かつて道德に取り組んだOBの一人として、お願いしたい。
 - ・先生方の苦労には頭が下がる。家族を大切に体に気をつけてほしい。
 - ・コロナ禍でPTA活動や様々な行事が中止、縮小される中で、新しい生活スタイルに合った活動に変えていく良い機会かもしれない。行事の精選などを行い、先生方の多忙感が少しでも解消されればと思う。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・多忙化解消は、様々な分野で問題視されている。どの行事、教育活動にも意義はあるが、全部はできない。本校が大切にしたい、重点としたい教育的意義はなんなのかを明確にすることが大切。今後も具体的な改善案を出して良い方向に進めるよう、頑張っていたきたい。
- ・危機管理については、いつ何が起こるか分からない時代なので、マニュアルの簡素化したものも作成しておく必要もあるのではないかな。
- ・学校が地域に出向くことも必要ではないか。昔のような地区懇とは異なる方法はないだろうか。地域の役員との話し合いはどうだろう。学校から地域を見る目、地域から学校を見る目は、また違うものである。
- ・地域の資源(人、物、歴史や地理)については、単独校で見つけるのではなく、教育委員会等で探して登録してもらい、必要なときをお願いするのが良い。
- ・地域と中学生の関わりにどう取り組むかについて、学校・地域の役員で共通理解をすることが大切である。
- ・あいさつが十分できていると感じている教職員や生徒は多いが、そうでないと感じている者も一部いる。最も大切な、人とのつながりの一つとして、誰もが竜王北中のあいさつを誇りと感じられるよう、生徒が主体的に実践しようとする意識を育てていきたい。

※特記事項

- ・特になし

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長） 氏名：石合 廣光 印